

渋の地獄谷噴泉 [噴泉]

渋の地獄谷噴泉（しぶのじごくだにふんせん）は長野県（ながのけん）の温泉文化のシンボルとなっている、珍しい地熱現象である。大多数の間欠泉が数分～数時間ごとの一定の間隔で噴き出すのとは異なり、この噴泉は高さ 20 メートルに達する水柱を絶えず放出しており、川底から発せられるその水の温度は摂氏 90 度を超える。ナトリウム、硫黄、硫酸カルシウムが豊富に含まれており、ミネラルが結晶化した沈殿物が噴泉口の周りに堆積するため、口が塞がれないよう定期的に取り除く必要がある。

地獄谷（じごくだに）（直訳すると、hell valley「地獄の谷」）とは、広範にわたって地熱活動が起こっている地域によく使われる名称である。源泉を入湯用に引く以前、この場所にはたくさんの噴泉があり、ゴーゴーという音や、もうもうと立ち込める蒸気、硫黄のにおいが谷じゅうにひろがっていた。現在でも、いかにも地獄らしい光景を見ることができ

る。

横湯川（よこゆがわ）の反対側には、1864 年創業の旅館、後楽館（こうらくかん）がある。

この旅館の川岸にある温泉は、地獄谷野猿公苑（じごくだにやえんこうえん）で人気の猿の温泉を作るきっかけとなった場所である。子ザルが後楽館の温泉に浸かりに来ることが時折あったため、これを止めさせるべく、公苑の職員がサルたちをうまく旅館から遠ざけようとサル専用の温泉を作ることにしたところ、やがて、この一帯に住むサルたちによる独自の入浴文化が発達したのである。